

Integrated Report 2025

テイ・エス テック 統合報告書



「人」のチカラで 「喜び」を社会へ

TSフィロソフィー

理念

「人材重視」「喜ばれる企業」

社是

わたしたちは 常に モノづくりに夢を求めて
無限の可能性に
挑戦し
快適で良質な商品を
競争力のある価格で 世界のお客様に
提供する

運営方針

- 人の和とコミュニケーションを尊重して、明るい職場を創ろう。
- 時間とプライオリティを大切に、調和のとれた仕事をしよう。
- 情熱と知恵をもって、新しい価値の創造にチャレンジしよう。
- 自己のビジョン実現に向けて、たゆまぬ努力をしよう。

私たちの存在価値は時代を超えて「TSフィロソフィー」にある。

「人材重視」「喜ばれる企業」

社員一人ひとりの力を最大限に引き出し
いつだって、お客さまの笑顔を生み出す製品を追い求めてきた。
誰も体験したことのない感動を、世界中に届けていくために
私たちが生み出す価値は常に変わり続けていく。

でも私たちの信念は変わらない。
これからのモビリティをもっと自由で、
もっと楽しいものにするために無限の可能性に挑戦し続ける。



テイ・エス テックグループに受け継がれる TSフィロソフィーの考え

当グループの存在価値は、理念・社是・運営方針から構成されるTSフィロソフィーを具現化することでのみ、見出すことができます。人こそ企業の決め手との考えを企業経営の根幹に据え、自動車内装システムサプライヤーとして継続的な企業価値の向上を図るとともに、社会との共生を目指して、ステークホルダーの皆さまから「喜ばれる企業」であり続けることが、私たちの使命であると考えています。



存在価値

企業活動の根幹を成す理念

「人材重視」 「喜ばれる企業」

一生懸命に努力し挑戦する人材が、当グループの原動力であり、企業の財産「人材」でもあります。当グループはそうした「人」を大切にしながら、全てのステークホルダーと信頼関係を築き上げ、存在を期待され「喜ばれる企業」になることを目指しています。

当グループの企業活動の目的を表した社是

わたしたちは 常に モノづくりに夢を求めて
無限の可能性に
挑戦し
快適で良質な商品を
競争力のある価格で 世界のお客様に
提供する

前段

社是は前段と後段に分けて構成されています。前段は理念の一つである「人材重視」に通じ、理念を体現するための“心”を表しています。また、後段はもう一つの理念「喜ばれる企業」に通じ、理念を体現するための“形”を表しています。

後段

社員一人ひとりが意識して取り組む4つの運営方針

- ▶ 人の和とコミュニケーションを尊重して、明るい職場を創ろう。
- ▶ 時間とプライオリティを大切に、調和のとれた仕事をしよう。
- ▶ 情熱と知恵をもって、新しい価値の創造にチャレンジしよう。
- ▶ 自己のビジョン実現に向けて、たゆまぬ努力をしよう。

当グループで働く人材は、開発や営業・購買、生産、管理等、それぞれ職種も違えば働き方も異なります。運営方針を自身の業務に置き換え、TSフィロソフィーを実践する道しるべとして、各々が意識しながら日頃の業務に取り組んでいます。

TSフィロソフィーを体現する 世界中の多様な「人材」が 企業成長に欠かせない「人材」となる

「人材重視」を实践

働く皆の笑顔が当社の未来を拓く

私は、企業理念の一つである「人材重視」の下、お互いの個性やスキルを尊重し、笑顔で楽しく働ける組織を目指すという思いを込め、「Smile」を課のスローガンとして掲げています。

商品開発課は、未来につながる新たな価値や商品を創出する部門です。一人のアイデアがどれだけ優れていたとしても、新たな価値や商品は一人だけでは創り出せません。商品開発には多様な視点を持つ仲間との対話が必要不可欠だからこそ、仲間の考えを受け入れ、尊重する「人材重視」を体現することが重要です。具体的には、発言者に必ず拍手が送られる課内ミーティング、より良い職場を目指す職場改善委員の設置等、課員全員が主役となる取り組みを進めることで、より一体感を高めています。

今後も、私たちが会社の未来を担っているという誇りを持って働けるよう、一人ひとりの成長と挑戦を支援し、無限の可能性へのチャレンジを共に楽しみながら、持続的な事業成長に貢献していきます。



開発・技術本部
商品開発部 商品開発課長
伊藤 生佳

「喜ばれる企業」を实践

皆さまから「喜ばれる企業」になるために

2025年5月に、テイ・エス テックはインドにおけるマルチ・スズキの主要シートサプライヤーであるKrishnaグループと、合弁会社KRISHNA TS TECH AUTO PRIVATE LIMITED [KSTS] を設立しました。

KSTSは当グループとして初となる合弁開発会社であり、技術力の向上を目指すKrishnaグループとインド市場の拡販を目指す当グループの思いが一致して生まれました。両社の思いを果たすためには、国籍の異なる社員同士がお互いを理解し、尊重し合いながらチームワークを高めていくことが重要です。良質なコミュニケーションにより、両社が培ってきた技術と豊富な経験を余すことなく共有していくことで、さらなる価値を生み出す力を最大化することができれば、インド国内のみならず、全世界のお客様に喜びを与えられる製品を世に送り出すことができると信じています。

今後もさらなる発展が見込まれるインド市場において、魅力ある商品開発に取り組み、ステークホルダーの皆さまから「喜ばれる企業」であり続けることを目指します。



アジア・欧州地域本部
KRISHNA TS TECH AUTO PRIVATE LIMITED駐在 上級主幹
松島 正明

CONTENTS

- 01 企業理念
- 02 TSフィロソフィーとその実践
- 04 CONTENTS／編集方針
- 06 テイ・エス テックのあゆみ

ステークホルダーの皆さまへ

- 08 社長メッセージ
事業環境が激変する中においても 常に挑戦を続け
さらなる企業価値向上を目指す



価値創造ストーリー

企業価値向上に向けて

- 12 価値創造プロセス
- 13 培ってきた強み
- 20 積み上げてきた資本
- 22 2030年に向けた目指す姿
- 24 第15次中期経営計画概要
- 26 次世代に向けた価値創造の実践
- 30 財務戦略
- 34 価値を生み出す各セグメント
- 39 米州特集
北米収益体質のV字回復に向けた取り組み



- 44 ステークホルダーエンゲージメント

マテリアリティとESG経営

サステナビリティ Sustainability

- 46 サステナブルな社会の実現
- 48 特定したマテリアリティと2030年目標
- 50 サステナビリティ委員長インタビュー

社会 Social

- 52 人的資本に関する取り組み
- 56 人権尊重の取り組み
- 57 サプライチェーンへの取り組み

環境 Environment

- 60 環境に関する取り組み
- 64 TCFDに基づく情報開示
- 67 TNFDフォーラムへの加盟

ガバナンス Governance

- 70 コーポレート・ガバナンス
- 79 社外取締役鼎談
- 82 社外取締役メッセージ

ファクトブック

財務報告

- 85 財政状態と経営成績に関する説明および分析
- 86 連結財政状態計算書
- 87 連結損益計算書および連結包括利益計算書
- 88 連結持分変動計算書
- 89 連結キャッシュ・フロー計算書



財務・非財務ハイライト

- 90 財務ハイライト
- 92 非財務ハイライト
- 96 会社概要
- 97 統合報告書2025の発行にあたって

編集方針

テイ・エス テックグループは、2012年より当グループの財務・非財務情報の統合報告書として「テイ・エス テック レポート」を発行しており、2021年3月期からその名称を「テイ・エス テック統合報告書」へ変更しました。引き続き、本誌では世界中のステークホルダーの皆さまから存在を期待され「喜ばれる企業」となるため、当グループが大切にしている企業姿勢や、事業を通じて行っているサステナブルな取り組みを紹介していきます。

報告メディアについて

統合報告書



テイ・エス テック
Webサイト

非財務情報

「サステナビリティ」
社会・環境・ガバナンスに関する
定性・定量情報を掲載
[https://www.tstech.co.jp/
sustainability/](https://www.tstech.co.jp/sustainability/)

財務情報

「投資家情報」
有価証券報告書や
決算説明会資料などを掲載
<https://www.tstech.co.jp/ir/>

対象範囲

グループ連結(テイ・エス テック株式会社および国内外の子会社、関連会社)を基本としていますが、環境・社会等の一部のデータについては国内単体のみの集計結果の場合もあります。集計範囲が異なる場合は、文中に明記しています。

表記に関する留意事項：

テイ・エス テックグループ(当グループ)は、グループ連結を示しています。また、テイ・エス テック(当社)は、国内単体を示しています。

対象期間

2025年3月期(2024年4月1日～2025年3月31日)

参考ガイドライン

- 国際標準化機構(ISO)「ISO26000:2010」
- IFRS財団(IFRS Foundation)
「国際統合報告フレームワーク」
- 経済産業省「価値協創ガイダンス」
- GRIサステナビリティ・レポート・スタンダード等

免責事項

本レポートは、当グループの計画・見通し・戦略・業績等の将来見通しの記述を含んでいます。これらは、現時点で入手可能な情報から判断した事項に基づくものです。